

研究開発プロジェクト「子どもの見守りによる安全な地域社会の 構築 ハート・ルネサンス」

研究代表者：池崎 守（特定非営利活動法人
さかいhill-front forum¹ 理事長）

1. 総合評価

研究開発目標の達成、社会的・学術的・技術的貢献の視点等を中心に総合的に判断して、十分な成果が得られていると評価する。

子どもの見守りのために多くのICT技術関連の開発、運用を行っており、それをツールに多くの人を巻き込み、各人が主体的に参加する各種の活動を展開することで、犯罪からの子どもの安全だけでなく、まちの防犯や、まちおこしにも通ずる多くの知見と経験を得ている。「安全に待った無しの現場」にとって、本プロジェクトの研究は、地域²とのつながりを主軸とした実践活動であり、心強い即戦力となるだろう。他地域でも単発的に行われている活動を、本プロジェクトは、総合的に意義付け、位置づけし、様々な関係機関と連携しながら地域全体活動を推進し、実践している姿に敬意を表したい。

まちおこしは様々に試みられているが、経済的コスト、物的・人的資源の制約などがその遂行を妨げることが多い。本プロジェクトはこれらを乗り越える手段を示唆している点でも有意義である。

これまでの成果は、プロジェクトリーダーの情熱と個性と努力に負うところが大きいと思われる。今後、この仕組み、活動が継続、他地域に発展・拡充して行くというところまで制度的に整備されることを期待したい。

人間行動の集積である社会の在り様は、現象の相関関係でさえ膨大な因子と結果それぞれの確定が必要であるが、人文・社会科学的方法論からみても、これまでの地域社会連携のプロセスで幾つかはなされてきた、時系列・水平的分析的に新しい視点が乏しいため、このプロジェクトでまちづくりが「充実」したという有効性の指標の明確化とその分析結果がもっと欲しかったと思われる。

このプロジェクトが一つのよい成功例を作ったことは高く評価できる。この事例をどうモデル化し、客観的に体系化して他地域で実装できる形へ展開していくかが今後の課題であり、そのための一つの材料を提供したことは評価できる。

2. 各項目評価

2-1. 目標設定の状況

領域目標に対し、プロジェクトのアプローチは適切であったと評価する。犯罪からの子

¹ 平成 17 年 4 月登美丘地区の北野田駅前にできた「東文化会館」の管理運営組織として発足。

² 本プロジェクトが活動する登美丘地区は昭和初期に計画的に開発された住宅地と古い町並み、自然が共存している良好な居住環境を有しているが、地区内の伊勢道はひったくりの犯罪が多発するなど、治安が悪化していた。

どもの安全を図るため、現在普及している ICT 技術を活用し、地域のネットワークをつなぎ、子どもの見守りをテーマにまちづくりを進めたことは、極めて適切なアプローチであった。

研究開発目標は当初より明確に設定され、社会の情勢変化等を踏まえてより目標を明確にし、関係機関との連携や住民参加による取組みへと適切に変更をおこなったと評価する。当初サーバーにて立ち上げた情報共有システムを評価・検証・継続性の容易さを議論した上で、子どもに持たせた携帯電話の GPS 位置情報を活用し、情報共有に有効な見守りサイト「情報広場」をクラウド型に構築するなど、経費の節減を図り、技術の進展を巧みに取り入れて、より効率の良いシステム作りを進めてきた。子どもの安全を実現しようとする明確な目標に対し、实际的な活動を通じて、より高い目標である地域社会の再興、住民参加による一般的な犯罪防止へと取組んだと言える。

この手法が今回の東日本大震災という状況、環境の変化に対応して、被災地において実装化されるとすれば、厳密なアプローチに基づくその成果の検証こそは地域連携形成のプロセスの一般化に資することになり、このプロジェクトの成果はその検証の基盤である。

2-2. 社会的貢献及び成果の社会での活用・展開

当初想定していた社会問題の解決は、概ね達成できたと評価する。統計的データは当該地域における街頭犯罪件数の減少を示しており、直接的な関わりという点では解釈は難しいが、地域活動の活発化を示す事例などから見ても、本プロジェクトの効果である可能性は大きいと考えられる。中でもコミュニティ FM 局「FM さかい」の開設は、防犯に留まらず、地域の多様な問題を取り上げ、問題に対する地域の解決力を高める上で大きく貢献するものであり、注目すべき成果であろう。また、区長が広報誌のコメントで、本プロジェクトについて意見を述べるということは、1 つの研究開発プロジェクトが成功しただけではなく、社会的に認知されたことを意味している。

達成した成果は、社会に効果・効用をもたらす可能性があると期待できる。位置情報を使った子どもの見守り、「情報広場」、コミュニティ FM 局の開設など、本プロジェクト終了後も継続して機能できるようにシステムが構築されており、成果の社会的還元が十分に果たされている。このプロジェクトチームの熱意と、地域性によるものが極めて高いと感じられ、一般化は難しいようにも思われるが、本研究のシステムを活用すれば、他地域にも適用できると思われる。

アウトリーチ活動は、十分に行われたと評価する。大阪という一地域に留まらず、被災地の東北などにも情報提供を行っており、研究の広がりを感じる。

2-3. 学術的・技術的貢献

達成した成果は、領域が設定した問題解決に資する知見・方法論等の創出に比較的貢献しうると評価する。パトロール、FM 放送局、GPS 等それぞれの活動は、すでに技術化や公開・定着を行っており、決して最新技術を駆使した目新しいものではないが、これらを有機的に組み合わせていくことで、新しい別の活動や結果を生み出したことは、社会学的な視点や方法論においては評価できる。技術の開発だけでなく、人とのつながりを大事にしながらの実践と行動、さらには情報共有システムによる「情報広場」の構築など、きめ細かい取組みが学術的・技術的にも評価できる。他方、人文・社会科学的方法論から見ると、

時系列・水平的分析に新しい視点が乏しいために、このプロジェクトでまちづくりが「充実」したという有効性の明確化とその分析結果、つまりエビデンスに基づく視点がもっと欲しかった。

このような活動はその国の文化に強く依存しているために単純な国際的な比較は難しいが、国際的水準から見ても興味深い成果だと思われる。

2-4. 研究開発の実施体制と管理運営

研究開発の実施体制は適正であり、社会の情勢変化や社会問題の解決の進捗状況等に臨機応変に対応できたと評価する。プロジェクトリーダーが先頭に立って、積極的に実施体制を組んで、社会の情勢変化や社会問題の解決の進捗状況等に対応してきている。地域の住民を中核に、行政、学校、警察、教育委員会、企業等と連携・協力して推進した研究開発であり、まさに、理論と実践の融合であり評価できる。

研究開発の場が現に活動している地域社会であることを考慮すると、「計画／実行／評価（自己評価）」のサイクルを適切に社会の状況変化に適合させることは大変努力を必要とすることであるが、多くの関係者を巻き込んで、人の輪を重視しながら、かつ状況の変化を見ながら、運営・管理を実行してきており、高く評価できる。

2-5. 副次的貢献

本プロジェクトの活動は、関係機関を巻き込んだ社会づくりを目指したことで子供の見守り（子どもだけでなく親も）活動だけでなく住民の見守り（独居老人、徘徊老人）や広く地域の防犯に寄与しており、地域住民への防犯意識の高揚やまち全体の防犯に貢献しており、副次的に大きな成果があった。地域社会の連携形成が充実している地域は、優れたリーダーに依存していることに変わりがない状況を改めて知らしめた点も評価できる。

2-6. 費用対効果

地域の世代を越えたさまざまな人々の活動実態をみると人材育成の観点からも一定の成果があり、ハート・ルネサンスの活動の存在自体が、人々の連携形成の大きなひとつの在り方としても社会的貢献をなしている。ICT 技術関連の開発、運用等に多くの資源を投じられている。それをツールとして住民を取り込んでまち全体での活動を考えると、その効果は投じた費用にある程度見合ったものであった。

2-7. 特記事項

本研究開発プロジェクトで得られた知見は、街頭犯罪等の地域防犯対策を目的とした地域づくりを行う際の一つのモデルケースとなり得る。また、地域共同体の機能強化であり、それは防犯に限らず、地域が抱える種々の問題の解決に資する可能性を持っている（平成 23 年 10 月、本プロジェクトによる取組み・成果等も含めた堺市登美丘地区の防犯活動への取組みに対し、同地区防犯委員会が「安全・安心なまちづくり関係功労者」内閣総理大臣表彰を受章したことは、こうした地域コミュニティー一体となった取組み及びその効果が、全国的な規模で高く評価されている証左であると言える）。

研究開発終了後、その成果をより有効に社会還元するにあたり、研究者が媒介となって、

複数の事例の特にプロセスの面を交流していくことを検討できる仕組みを作ることや、行政が実施しているまちづくり活動において、このプロジェクトをモデル事業や防犯活動として、支援や紹介をすることが有効である。今後は行政が提供する各種補助金などを上手く活用し、息の長い活動になることを期待する。

また、社会技術研究開発センターには、本研究で得られた活動成果を普及・維持させるために、メディアなどを通じた啓発活動や、各自治体等に本活動を紹介してその有効性を理解してもらい、資金的、活動拠点等の支援を依頼・提案するような機能を持つことを期待する。